検討すべき事項と進め方（案）

国土交通省

資料3

- 航空大学校が恒常的に**航空輸送の中枢を担う質の高いパイロットを養成**し安定した航空輸送の実現に寄与する組織を目指し、現在の遅延状況について「**要因の深堀り**」と「**必要な取組み**」**について検討**を進めるとしてはどうか。

＜要因の深堀り（例）＞

・２年で100名規模を養成する観点において、訓練計画は適切であったか（天候不良等の影響を考慮されているか、機材・教官等のリソース、使用する空港の数や特徴が考慮されていたかなど）。適切でない場合はその要因

・訓練は計画的・効率的に行われていたか（機材の稼働率、教官の勤務状況、学生の教育・訓練状況）

・訓練進捗管理は適切であったか。遅延に対する問題意識の有無等

・養成遅延が改善されずここに至った理由。法人の目標設定、人事評価の適切性　等

＜必要な取組み（例）＞

前述を踏まえた取組みとして「待機学生の早期解消」「恒常的な安定養成に必要な体制」の二つの観点から、例えば以下の事項について検討してはどうか。

〇待機学生の早期解消

・シミュレータの活用など更なる訓練の効率化、外部リソースの活用可能性

・待機学生への更なるサポート、　入学定員の一時的な縮減　等

〇恒常的な安定養成に必要な体制

・100名規模の安定養成に必要な訓練計画、リソース、使用空港等の検討

・訓練の進捗管理に係る組織管理の徹底、経営陣、教官等の職員の意識改革

・持続可能な財源、十分な訓練環境の確保（老朽化した学生寮の改善、分校体制のあり方等）

・法人に対する目標設定、法人の計画設定の適切性、課題を自ら改善するための仕組み、組織運営のノウハウ　等

進め方

航空大学校の養成状況の詳細調査（東日本大震災前の遅延がない状態との比較も含む）、経営陣、教官、学生に対するヒアリング、他の養成機関の養成データとの比較衡量、海外の先進的な養成機関の事例調査等を用い検討を進めてはどうか

スケジュール（案）

国土交通省

令和７年４月	：	第１回検討会　（現状・課題・検討すべき事項）
令和７年６～７月頃	：	第２回検討会　（航大へのヒアリング、詳細分析による要因深堀り）
令和７年８月頃	：	第３回検討会　（論点整理（要因や対策等））
令和７年９月頃	：	第４回検討会　（とりまとめ骨子の議論）
令和７年１０月頃	：	第５回検討会　（とりまとめの議論）